

四季報 春号 第三百二十七号 (No.137)

芹沢文学研究会・会報

令和8(2026)年4月29日(水)刊行

◎ 芹沢光治良記念文化財団

マグノリアの会 芹沢家光治良・文子・玲子の思い出を語る会

初夏の歌
爽やかに吹き
庭の木々
青葉 若葉と
なるぞ 嬉しき
松林庵主人

■日時 令和8年3月7日(土) 14:00～19:00 ■会場 サロン・マグノリア
■募集 40名予約制 ■参加費 1000円(茶菓子)
◆プログラム (1) 芹沢家 思い出の写真紹介 (2) 芹沢光治良 映像で紹介・中野文学散歩 いくつか見た街の作家・芹沢光治良 (3) 参加者の思い出話

＊この案内は、既に終わっていますが、御紹介まで。

参加者の皆さん、思い出を語り合いますよー

★ 沼津市芹沢光治良記念館

図録 企画展 『光治良と神展―最晩年の作品から―』 全64頁

令和八年三月三十一日発行 沼津市教育委員会 事務局文化振興課 鈴木吉雄 監修

目次 本書の刊行について 光治良を青んだ自然 『神の微笑』 作品の内容
『神の微笑』 作品を読む時のポイント 『神の微笑』 作品の内容
『神の微笑』 作品を読む時のポイント 『神の計画』 作品の内容 『神の計画』 作品を読む時のポイント 『人間の幸福』 作品の内容 『人間の幸福』 作品の内容
『人間の幸福』 作品を読む時のポイント 『人間の意志』 作品の内容 『人間の意志』 作品を読む時のポイント 『人間の生命』 作品の内容 『人間の生命』 作品を読む時のポイント 『人間の意志』 作品の内容 『人間の意志』 作品を読む時のポイント 『大目然の夢』 作品を読む時のポイント 『天の調べ』 作品の内容 『天の調べ』 作品を読む時のポイント 『遺稿』 逝去の沼津朝日の記事 連作のロシア語訳関係 『芹沢聞ええた人 墓所墓碑銘 納骨記事 最期の写真』

図録『光治良と神展』表紙

★ 芹沢光治良文学愛好会の会報 通信 No.553 No.554

芹沢光治良文学愛好会の例会 東中野区民活動センターの洋室4(2階)

3月22日(日) 13:00～17:00に読書会 司会 豊田英文

テキスト 短編小説『鎮魂歌』(『芹沢光治良文学館』平成9年2月10日発行)

送付資料は、①沼津市芹沢光治良記念館・企画展「富士山から芹沢光治良の作品ひもとく」(複製原稿など)70点展示 2月10日 東京新聞 ②例会資料「旧石丸邸と一高から留學までに芹沢光治良が見えた世界」豊田英文 写真、『人間の運命』第3章 愛 第4巻 出版 旧石丸邸 大正11年26歳〜同14年29歳 『春箋』に石丸邸の描写がある。③岡林はな句集『苔の鎮』昭和60年7月13日発行 月例読書会テキスト『苔の鎮』に寄せて「芹沢光治良、岡林はな経歴、跋文 岡林よしる。鈴木春雄編集・作成。

4月25日(日) 13:00～17:00に読書会 司会 豊田英文

テキスト 『人間の運命』「父と子」(第二章・第四章) 新潮文庫

送付資料は、①「沼津市芹沢光治良記念館」企画展「光治良と神展―最晩年の作品から―」総集版 図録の刊行と頒布のお知らせ ②モントリオール大学 アダム・ライオンズさんから③芹沢光治良生誕130年を踏まえた読書会テキストについて ④サロンマグノリアの会場使用について ＊この2回の例会は、既に行われたものです。愛好会の活動の紹介です。

◎ 芹沢文学愛読者の会 短信 第240号 2026年4月5日発行

①旧石丸邸開「旧石丸邸での芹沢光治良文学愛好会読書会に参加して」平石政行

【要約】去る二月二十六日(木)、久々に上京して芹沢光治良文学愛好会の読書会に参加した。森次郎と田部氏ゆかりの「旧石丸邸」が会場。洋館はみなお結婚式場として活用されている。若き日の次郎と同じ場所と同じ空気を吸っている。読者真利に尽きるひと時。テキストは『野の花』。岡島はなさんのエッセイ。新潮社の北村晁士さんも参加。「芹沢先生は、日本の物故作家の中で今なお全集が売れ続けている稀有な作家の一人です」と紹介。二三人の参加者。②芹沢光治良 自伝抄「捨て犬が雑草のように」第8回「家庭教師で二高バス」も紹介。

★ 沼津芹沢光治良文学愛好会 5月4日(月) 祝 13:30～15:00

芹沢光治良先生の生誕130年 芹沢光治良を偲ぶ会 沼津市芹沢光治良記念館2階(キタリ) 当日は、記念館の入館料無料 参加費不要 第一部 講演「光治良作品を愛する音楽家 楽曲」 第二部 電子ピアノ演奏 光治良がヨーロッパで出会った音楽 代表 不破久温 副代表 芹沢光司

◎同封資料① 批評「移りで救われた青少年期―芹沢光治良『親闕った文豪』山本祥一朗著 平成20(28)年4月25日 真奈出版社発行

◎随筆「生きた右ころや盆栽のたのしみ」芹沢光治良 入生読本 コレクション 昭和56(82)年6月12日 河出書房新社発行 資料提供 中村輝子

◎文学評論 連載「芹沢文学講話」④ 芹沢光治良と三木清、パリで交流した随筆者・評論家三木清 芹沢文学研究会 代表 小串 信正

【再訳文庫論】 芹沢光治良の随筆 Ⅱ 随筆と随筆集の出版について 小串 信正

芹沢光治良は、文学者として小説だけでなく随筆・評論として紀行文も多く創作しました。随筆はエッセイですが、芹沢光治良は随筆とも言っています。中学の時に書いたものは作文と言いますが、学友会報に二年生の時に「夜の歸り道」、三年生で「記念館 心のひびき」、五年生に「卒業間際に」を書いていきます。文才があったことが知られます。一高の二年生で文芸部委員となり、「失戀者の手紙」を寄稿しました。これは随筆的な作品ですが、自己の体験でなく先輩のことを書いたことでは小説とも言えます。巴里に留学し、結核となり、フランスやスイスの高原療養所で闘病した時に空想して由に書いたものも随筆的なものと言えます。

『芹沢光治良作品集』昭和四十九年十月十五日新潮社発行の第九巻は随筆集ですが、その月報「思い出すこと」に、芹沢光治良は随筆集について書いています。「私は今日までたくさん随筆を書きました。戦前に三冊の随筆集を出しました。」と書いています。

- ① 『收穫』(昭和16年12月11日 東峰書房発行)
 - ② 『文學と人生』(昭和17年12月30日 全国書房発行)
 - ③ 『文藝手帖』(昭和18年4月30日 同文社発行) の三冊です。
 - ④ 『私にとつて、随筆は日記の代りのもあり、外部の事象が私の心に投影したものを、デッサンのように書きとめたものもあり、私のなかのもう一人の私との対談であったりして、私は随筆を好んで描きます。』と書かれています。戦後には、次の随筆集が出版されています。
 - ⑤ 『幸福への招待』(昭和28年6月30日 要書房発行)
 - ⑥ 『人生について・結婚について』(昭和42年5月25日 新潮社発行)
 - ⑦ 『この旅』(昭和44年5月20日 新潮社発行)
 - ⑧ 『生きるとは書いとーお入生編ー』(昭和51年9月30日 大和出版発行)
 - ⑨ 『この広場』(昭和52年4月15日 新潮社発行)
 - ⑩ 『この波』(昭和57年10月15日 新潮社発行)
- 『芹沢光治良文学館』の11巻と12巻にはエッセイが収録されています。これには、紀行文や評論・自伝も収録されています。10巻の随筆集から精選して、何巻かの文庫版で出版する」とを提案します。新潮文庫が岩波文庫で出版して欲しいとお願いしています。(令和8年4月)

◎芹沢文学 豆知識② 長編小説『新しいパリ』昭和28年2月10日 小説朝日社発行

戦後の昭和26年5月から、スイスのローザンヌで開催された世界ペン大会に日本代表として参加するために、渡欧しましたが、パリに滞在した時のことを杉新太郎として小説化したのが、長編小説『新しいパリ』です。留学していた時に下宿していた家を訪ねたり、学友の家族に再会します。ジャックのリリー夫人にも再会します。結核療養をしたエーヌ県のオートビルにボナフエ博士を訪ねたりもします。旧友フーベルの仲介でA出版社から作品を仏訳することも進みます。日本料理店のアイダ夫人との交流も書かれています。アナキストのシイナさんにも再会します。パリへの紀行文とも言える長編小説です。『芹沢光治良文学館2』(平成7年12月10日 新潮社発行)にも再録されていますので、御一読下さい。

★新年度になりました、未納の方は年会費の納入をお願いします。

郵送費が値上げされていますので、今年度から年会費を2000円に値上げします。御了承下さい。同封の郵便振替にて年会費の納入をお願いいたします。自主的な寄付も受入れますが、無理をされませんように。どうか、よろしくお願いします。

▽郵便振替の振替口座の方式が変わったので、御面倒ですが、納入されましたら「振替口座 年会費入金報告」に入金の月日・金額・氏名を記入して、同封の封筒切手はついていますので必ず御返送下さい。よろしくお願いいたします。

▽新入会員の紹介 その後の入会者は有りません。新入会員をお誘い下さい。◆◆◆

☆編集後記 ☆…………… 編集責任 小串信正 ……………

芹沢文学研究会の会報 第137(巻号)と同封資料をお届けいたします。春の雨が降りつつ、初夏の季節となりました。木々の若葉が生きていますが、お元気にお過ごしのことと思います。アメリカとイスラエルのイラン攻撃が始まれば、停戦の交渉が進まず、トランプ大統領の暗殺未遂があったり、今後どうなるのか心配です。全世界的に石油不足でガソリン代や石油製品が高騰して多くの人々が苦しんでいます。日本では、石油備蓄があり、ガソリン代補助で今のところは何とかなっています。ロシアのプーチンや中国の習近平の独裁政治が行われていますが、アメリカのトランプまでが軍国主義の王様になっています。21世紀の地球の人類は、こんなことをやっていたら、絶滅危惧種になっていくのではなにかと暗澹たる心境です……。会員の皆さんの健康無事を祈念いたします。

『新しいパリ』の内面表紙